



☆どうぞ自由にお持ち帰りください☆

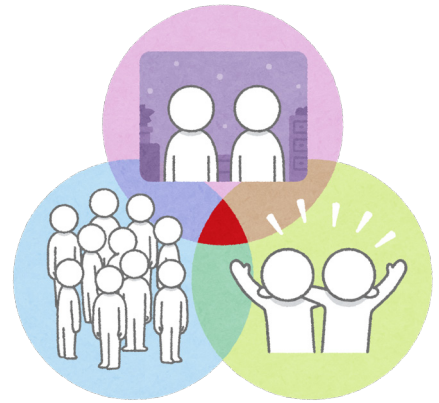
6月に入りました。緊急事態宣言が解除されて、世の中は経済活動再開ムードとなっています。その中で、北九州市のクラスター感染や、東京の夜の繁華街での感染は、収束していません。

世界に目を向けますと、感染者数はアメリカ 180 万人、ブラジル 50 万人、ロシア 40 万人、イギリス 27 万人に達して減少に向かっていません。日本が感染者数 1 万 7 千人、死亡者数 898 人（6 月 2 日時点）で収束に向かっていることは、考えられないことと言えると思います。なぜ、日本は世界で二番目に早く感染者が出ながら、感染者数が少なく抑えられたのかについては、様々なことが言われていますが、原因は明らかではありません。アジア諸国については、日本と同様に感染者数が低く抑えられている傾向にありますので、なんらかの共通の原因があるのかも知れません。

新型コロナウイルスでクラスター感染が起きると、感染力は爆発的です。そのためにクラスターが起きる条件を作らないことが最も大事ということになります。

それが3密を避けるということです。

1. 換気の悪い密閉空間
2. 多数が集まる密集場所
3. 間近で会話や発声をする密接場面



3密を避けるという生活様式がこれからスタンダードになると考えられます。高齢者施設、病院においては、感染者が入った場合には、大きなクラスターとなり高齢者や免疫力がない患者に感染が起きるという大変な事態となります。対策としては、医療者自身の健康管理、感染管理が重要です。施設へ訪問する人を減らす、発熱患者へは常にコロナ患者を想定した対応をすることが必要となります。

さて、第一波が一段落してくると、段階的解除となります。また、再度クラスター感染などが起きた場合は、再び緊急措置へ変更する場合があります。（次のページに続く）

♪アラカンカフェ（男性の定年後の生活を考える集まり。予約不要でどなたでもご参加いただけます。）♪

6月27日（土）16:00～17:00 場所：真生会富山病院 本館5階 大講堂  
演題：ACP～人生会議とは～ 古谷正晴

富山県では、5月29日より、解除ステージ1となりました。ほぼ全面的に解除となります。密にならないように注意しながらの活動再開です。

第二波への対処が話題となっています。今後、全国的に移動が解除されるとなると、感染地域から感染者が地方へ移動する可能性が高まります。今回のことで知らされたのは、あらゆる地域にあらゆる場所から人の移動があるということです。医療機関では、基本的には、常に新型コロナ感染者の可能性があるという前提での対処が必要となります。

日本の医療機関の脆弱性もあらわになったと思われまます。多くの医療機関はコロナ感染の前より、予算削減、統合、病床削減などの圧力に見舞われており、弱体化していました。ICUの数を削減されました。日本のICUの数は、イタリアより少ない現状です。そこにコロナ感染が起こり東京は医療崩壊寸前までいったと言われています。もし、北イタリア、さらにニューヨーク並の感染が東京で起きた場合、想像するのも恐ろしいことになっていたと思われまます。富山市では一時、感染症対応病床がほぼ埋まりました。

幸いにも今回は、呉西地区は感染から免れましたが、今後どの地域でクラスター感染が起きても不思議ではありません。医療機関を弱体化させない国の政策が必要不可欠です。これまでの日本の医療政策は転換が必要と思われまます。当院では、独自に4月よりプレハブによる発熱外来を設置し、院内感染を防ぎ、新型コロナ患者を発見・隔離して治療するという方針をとりました。ピーク時には、毎日10名以上の発熱患者が来院しました。6月には旧病室を転換してコロナ対応ができるように改修し、院内クラスター感染を起こさないための準備を行っています。これらの対策は本来はすでに行われているはずのものです。日本ではSARSなどの感染症の流行が起きなかったために、多くの医療機関が、感染症に無策のままでした。

コロナ後の医療はどのように変わのでしょうか。今回の新型コロナ対策により、インフルエンザなどの冬に流行する感染症が減少しました。よくも悪くも新型コロナウイルスと付き合っていかなければならないので、医療機関も、私たちも変化に対応していかなければなりません。

食事、運動、睡眠は最も心身の健康を保つために大事です。コロナ鬱や過剰な防御反応など心身のバランスが崩れていることが、報告されています。3密にならないようにして、手洗い、また適切なマスク着用をして徐々に日常を回復していきたいものです。



#### <お近くのクリニックに通院していただけます>

厚生労働省は、病状が安定した方にはクリニックなど「かかりつけ医」での治療を推奨しております。「真生会まで遠くから来ている」「薬をもらうだけなのに待ち時間が長い」と通院にご負担を感じておられる方はお住まいの地域の医療機関にご紹介（逆紹介）させていただくことが可能です。真生会富山病院は地域の先生方と協力し「地域と連携する医療」を提供したいと考えております。逆紹介のご要望は主治医や近くのスタッフにお申し出ください。